

渡島地域ユニオン・道南医療会議合同 2015年新入組合員研修会

昨年度、試行的に開催した渡島地域ユニオンと道南医療会議合同の新入組合員研修が好評であったことから、5月23日(土)、函館国際ホテルにおいて2回目となる研修会を開催しました。

今回は独自に新入組合員研修を行っていない労組からの参加も受け入れ、引率の各労組役員も含めた約50名の規模で行いました。

冒頭、渡島地域ユニオンの八木橋執行委員長(連合渡島地協事務局長)から研修会開催の経過や目的について触れ、3時間に及ぶ研修会がスタートしました。

講座の第一課題は、「地域労働組合構成と労働組合の役割」と題して、渡島地域ユニオンの高橋委員長代行(連合渡島地協副事務局長)が講師となり、「組合員にとっては労働組合があると…」 「組合員にとって、さらに上部団体に加盟すれば…」を具体的な例を挙げながら寸劇風に講演しました。



続いて、道南医療会議の斉藤議長からは、医療・介護関係者以外でも理解できる各医療専門職の役割や「介護老人保健施設と病院の違い」等について一般人向けの説明があり、「介護老人保健施設」と「介護老人福祉施設」という似たような名称でも、その対象者や目的の違いを学ぶことができました。

また、中小労働組合を代表して渡島地域ユニオンの平石事務局長からは、地場中小企業の状況やその中で活動している労働組合の状況や課題について講演がなされ、前半を終了しました。



さらに、休憩をはさんで労働金庫函館支店や全労済道南支店から、それぞれの機関の生い立ちや商品のメリットについて、自分自身の経験も披露しながら各担当者から説明がありました。

研修会の最後は、函館地区青年委員会の中島事務局長を講師に青年委員会の活動概要や設立の意義・目的について説明し、最後に毎年開催している独自イベントである「フェブラリーナイト」のPRで講演を締めました。

閉会挨拶に立った、渡島地域ユニオンの渡部副執行委員長からは、長時間の参加に対する労いと研修会での講演内容を少しでも今後の活動に役立てていただきたいと要請し、懇親会へと移行しました。